

# 平成27年度 三遠地域道路整備効果広報検討業務

(国土交通省 中部地方整備局名四国道事務所)

道路・港湾等インフラの官民連携整備による

## 三遠地域の未来づくりシンポジウム

### 目的

三遠地域においては、これまで地域企業と行政との意見交換により、官民一体となって道路・港湾等のインフラ整備を進めてきました。その結果、自動車産業をはじめとする多様なものづくり産業における生産性向上等のストック効果をもたらし、国際的な産業競争力の強化や地域の雇用の増進等、地方創生に寄与してきました。  
今後の輝かしい三遠地域の未来づくりのため、これまで三河港地域や西遠地域がそれぞれ取り組んできた官民連携の醸成を図り、地域企業等と地元自治体等による意見交換の場としてシンポジウムを開催します。

日時 平成27年11月2日(月) 14:00~16:30

【サテライト 13:00~17:30】

場所 穂の国とよはし芸術劇場プラット / アートスペース (約200席)

【サテライト会場 / 豊橋駅南口駅前広場展示スペース (産業PR・車両・農産物・観光展示等)】

◎雨天等にて中止の場合は、当日の10時までに、以下のHPにてご連絡します。  
http://www.toyohashi-at.jp/ 【穂の国とよはし芸術劇場プラットHP】 http://www.city.toyohashi.lg.jp/23582.htm 【豊橋市役所道路建設課HP】

### プログラム

#### 1. 開会挨拶 【14:00】

#### 2. 提言発表 【14:15】

「三遠地域の道路・港湾インフラのストック効果と期待」

- トヨタ自動車(株) 田原工場 工務部長 山崎義雄氏
- (株)デンソー 豊橋製作所 所長 古海盛昭氏
- スズキ(株) 生産物流部長 鈴木孝幸氏
- プライムアースEV エナジー(株) 生産管理部長 藤岡徳之氏
- メルセデス・ベンツ日本(株) 代表取締役副社長 荒垣信賢氏
- JA 豊橋 常務理事 伊藤友之氏

《休憩》

#### 3. パネルディスカッション 【15:25】

「官民連携による三遠地域の未来づくり」

コーディネーター：戸田敏行氏  
(愛知大学 三遠南信地域連携研究センター長)

パネリスト：豊橋市長、田原市長、浜松市長、湖西市長、  
豊橋商工会議所会頭、浜松商工会議所会頭

#### 4. 閉会挨拶 【16:30】

同時開催

### 産業PR展

三遠地域のものづくり企業・農協・観光協会等による産業・地域ブランド・観光等に関するPR展示を行います。

時間 13:00~17:30

場所 サテライト会場  
【豊橋駅南口駅前広場展示スペース】

- モノづくり産業PR展  
自動車、バイク等産業展示
- 農産物・観光PR展  
農産地域ブランド・観光PR展示

■主催：「三遠地域の未来づくりシンポジウム」実行委員会

豊橋商工会議所、浜松商工会議所、田原商工業会、三河湾明海地区産業基地運営自治会、三河港振興会、豊橋市、田原市、浜松市、湖西市

■共催：名豊道路建設推進協議会、浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会、東三河懇話会、豊川市、濱都市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村、愛知県、静岡県  
国土交通省中部地方整備局(浜松河川国道事務所、名古屋国道事務所、名四国道事務所、三河港湾事務所)

本業務の目的：

地域の幹線道路・港湾は、「ストック効果」すなわち地域産業のサプライチェーン、地域経済・社会の基盤としての機能を有している。

地域の企業、自治体および道路など整備主体は、ストック効果の拡大を目的としたインフラの整備・強化という共通認識の形成が重要である。

本業務は、インフラのストック効果の広報・共有方策を検討し、有効な広報手段の構築を目指すものである。

シンポジウムの開催：

ストック効果の広報実験として

- ① 企業・自治体から、実感されているストック効果の発表と今後の整備期待の表明
- ② 利用者である企業、関係自治体からは、県境、自治体境界を越えた三遠地域としてのインフラ整備の共通認識の形成の必要性が提起された

シンポにおいて「連携」の重要性が再認識

- ① 官と民の協議による地域整備方針の共有
  - ② 道路と港湾等多様なインフラの一体的検討
  - ③ 県境や、工業・農業など異業種間を越えた連携の重要性
- これらにより「連携」推進の宣言が採択された

## ～三遠地域の未来創生「連携」宣言～

三遠地域の自治体・関係団体・地域企業等が丸となり、今後の輝かしい三遠地域の未来創生のため、自主的かつ積極的に、次の3つの連携を行うことを宣言します。

### 1. 官と民の連携

これまでの官と民が連携した、意見交換会や勉強会による効果として、ビジョン・課題を共有し、効率的・効果的なインフラ整備を進めてきたことを踏まえ、今後も官と民が連携して地域整備を進めます。

また、これらインフラ整備によるストック効果を連携して取りまとめ、発信します。

### 2. 港湾と道路の連携

港湾と道路ネットワークが連携して各拠点を効率的に結ぶことで、この地域の産業・人口の集積に対応した民需創生に資するストック効果が最大となるよう、物流効率化等のための連携した取り組みを進めます。

そのため、必要となるインフラとして、三河港ならびに新東名高速道路、三遠南信自動車道、国道1号バイパス、国道23号名豊道路、浜松三ヶ日・豊橋道路をはじめ地域の道路ネットワークの早期整備を国及び県に要請するとともに、地域が連携して、取り組みを推進します。

### 3. 地域の連携

モノづくり産業や農業等の高いポテンシャルを有する、三遠地域が連携し、一体となった地域を形成することで、日本全体を牽引する持続的な経済発展につながるよう、地域が丸となって連携して、三遠地域の未来創生に取り組みます。

以上、宣言します。

平成27年11月2日

「連携」の具現化に向けて

- ① ストック効果を楽しむ関係者に共有される“三遠地域の未来像”の形成過程が最良の広報戦略
- ② 県境を跨ぎ、官や多業種間を越えた連携協議活動が、最大の広報の場となる。